

悪天候、視界不良、雪渓一。登山は
さまざまな危険と隣り合わせ



み入れた雪渓で滑落し岩に衝突。負傷して動けなくなった。通りがかった登山者が通報。警察、消防などが出動し救助。

「2010年8月。黒岳から旭岳への縦走中、裏奥付近で濃霧のため登山道を見失う。2日間山中をさまよった後、自力で登山道に戻る」。

いずれも遭難者が命を落とすようなことはありませんでしたが、少し条件が異なれば結果も違ったものになっていたかもしれません。

例えば、もしもう少し気温が低かったら…。もしもう少し雨が激しく降っていたら…。そう考えると、遭難して無事帰って来られるというのは幸運以外のなにものでもないことがわかります。

また、遭難というのは自分が辛い目に遭うだけではなく、身近な人達に多大な心配をかけるものです。私自身、捜索・救助活動に加わることがあるのですが、駆けつけたご家族が遭難者の帰りを待つ不安げな様子は、近くで目にするにはあまりに心苦しいものです。「絶対に遭難してはいけないのだ」と強く感じると同時に、登山ガイドの立場として「絶対にお客さまを遭難させてはいけないのだ」という思いも新たにします。

登山は心と体を豊かにしてくれる楽しいものです。その楽しさを享受するためにも、遭難しないための心構えと遭難しても帰って来られる装備を万全にしたいものです。(続く)

山樂舎BEAR 土 栄 拓 真

だいせつぎんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

安全登山を考える (3回シリーズ)

第1回 遭難事故

お花畑を埋め尽くして咲く色とりどりの高山植物。艶やかな織物のような紅葉。山頂から見渡すどこまでも続く広大な山並み。登山の楽しさは枚挙にいとまなく、さまざまな非日常を体験させてくれます。一方で、登山には危険がつきものであることも忘れてはいけません。疲労、道迷い、転倒、滑落…。ほんの些細な原因が重大な遭難事故につながります。そして楽しかったはずの登山が一転後悔だけが残る結果となってしまうのです。

ここ数年間、旭岳周辺では毎年のように遭難事故が起こっています。今年に入ってから、既に遭難1件がありました。

単独行のスノーボーダーが夜になっても宿に帰らず、翌日捜索隊が出た、というものです。結局、その日の午後に自力で下山してきて事なきを得ました。聞くところによると、日没のために行動不能となりやむなく山中で一夜を過ごしたのだそうです。冬山で夜を明かすことのできる装備と経験があったのが幸いでした。

その他にも次のような事例がありました。

「2011年7月。旭岳の隣にある熊ヶ岳付近で登山道を外れ、足を踏

俳句

水吸って豆のふくらむ春隣

冬隣五ヶ所巡りの温泉の香り

節くれし指が語らう冬籠

オクターブ上げ下げ気ままもがり笛

嬰兒の日々の仕草や春隣

春隣り検査良好笑みこぼれ

やじろべえ僅か傾く春隣

蛇のごと枝這う雪の白さかな

ひと日ごと身に添いゆかん春隣

色問えば人恋ういろよ春隣

春近し尽きぬ話とシナモンテイ

やわらかき波のふくらみ春隣

現世のよろず引き受けどんどの火

小林ろば

高橋公花

杉山ひろのり

徳光吐苦

杉山りつ

山口佐知子

高瀬潤

石澤清宏

澤田久美子

松山蓉子

三島智

秋山深雪

長谷川きみゑ

